

● CNC P はあなたが参加し楽しく議論し活動する場です ●

シリーズ「土木ということば」

第 6 回 浅草寺の時の鐘に「土木」

江戸後期の図録『集古十種（松平定信編）』に、鎌倉幕府を開いた源頼朝ゆかりの、当時は神仏習合の神宮寺であった鶴岡八幡宮と箱根権現（現箱根神社）の鐘の銘に「土木之殊功（永仁四年、1296 年作）」「土木之勤（正和五年、1316 年作）」が見える。ただし、明治維新後の神仏分離、廃仏毀釈によって、前者は明治 3 年、後者は明治元年に打ち壊されて現存しない。

江戸後期の地誌『江戸名所圖會（齋藤月岑）』に、江戸初期に江戸城北東の鬼門に造営された東叡山寛永寺の鐘楼があり、林羅山による鐘の銘に「成土木之功（寛永八年、1631 年作）」とある。ただし、この鐘も明治元年の上野戦争によって寛永寺の多くの伽藍とともに灰燼に帰して現存しない。

『江戸名所圖會』に「鯨鐘同所にあり二六時是を撞けり」とある浅草寺弁天山「時の鐘」は、将軍綱吉が命じて元禄五年（1692 年）に改鑄されたもので銘に「起土木之功」がある。東京大空襲で鐘楼を焼失して表面に火の跡が残るものの再建された鐘楼（本年 10 月末までは解体修理中）で見ることができる。

銘は「今大樹幕下、承先公之事、起土木之功、命山城守戸田忠昌、使十郎左衛門尉建部昌孝、五郎左衛門尉三浦義成、八郎右衛門尉国領重清、薰匠事。」

読み下しは「今大樹幕下〔将軍綱吉〕先公のことを承り、土木の功を起こし、山城守戸田忠昌〔一六三二～九九。老中〕に命じて、十郎左衛門尉建部昌孝・五郎左衛門尉三浦義成・八郎右衛門尉国領重清、匠事を薰ず。」である。

（土木学会土木広報センター次長 小松 淳）

Vol.54 コンテンツ

巻頭言	CNCP の使命：地方創生に貢献する	五艘 章	2
コラム	人口減少の亡霊が招くデフレマインド	藤本 貴也	3
部門活動紹介	部門活動紹介に代えて	内藤 堅一	4
シドニー視察旅行記（11）	シドニー研修旅行に同行して	秋田 直也	5
会員からの投稿	旧地名から歴史を紐解く	小松崎 暁子	7
サポーターからの投稿	「活用すること」と「維持管理すること」	横塚 雅実	8
事務局通信			10